

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和三年度七月 入賞句一覽

投句数 六百二十五句

特選

名和 永山 選



更衣箆筒の中の古新聞

本巢市

土川 楽人

暑い夏を迎えるために衣替えの時期がやつてきた。その準備で、箆筒から夏物を取り出そうとしている作者がいる。その箆筒の底に敷かれています。「古新聞」が目止まったのだ。この古新聞から、一年前の懐かしい夏物が目に入つたと同時に、時の流れを感じることが出来る。「更衣」と「古新聞」がお互いに呼応している。

外観でわからぬ病青嵐

大垣市

安藤 みき

病にもいろいろあるが、その多くは外観ではわからないもの。なるほどその通りである。季語「青嵐」の取合せだが、青嵐は、青葉のころ、森や草原などを吹き渡るやや強い風をいう。この季語は若々しく力強い感じのする季語である。単に病を「強い風」というつらさを表すだけではなく、詠者は季語に自分の思いを託したのである。つまり、病というものは、確かにつらいものではあるが、それを乗り越え力強さ、若々しいエネルギーで生き抜こうとしている。心の伝わる句である。

帽子屋にいろんな夏が来てをりぬ

大垣市

村田 通夫

帽子屋の店頭には、夏になると確かに色々な帽子が並んでいる。その帽子を「いろいろな夏」と表したところに、詩情がうまれている。つば広、メツシュ、長つば帽子、麦わら帽子などの種類と多彩な色、UVカット付きなど、夏ならではの帽子が並ぶ。俳句の材料（俳句の種類）としての目の付けどころがよい。

秀逸

濃あぢさゐの雫こぼるる机上かな

大垣市

高瀬 鈴子

急かすとも一日はひとひ蝸牛

揖斐郡大野町

藤田 涼子

節くれの手でふる鮎の化粧塩

大垣市

傍島 隆

更衣ポニーテールの手際良き

不破郡垂井町

小坂 久美子

過ぎし日の事のあれこれ夕端居

大垣市

伊藤 英司

ラムネ飲む女にできぬ仁王立ち

大垣市

早崎 美弥子

暗がりの路地に一筋舞う螢

養老郡養老町

佐藤 咲楽

風はみな光となりて若葉道

大垣市

神野 武彦

田水張る田ごとに雲を泳がせて

大垣市

久保田 悟義

青林檎齧る少年恋の歌

三重県鈴鹿市

松井 政典

入選

水すまし水を濁さず水を蹴る

梅雨出水黙のうねりの木曾三川

水底に影を落してみずすまし

栄へたる屋敷も更地半夏生

若葉風ゆつくり走る教習車

あんぱんのへそ胡麻うまし梅雨晴れ間

緑陰の句碑より仰ぐ天守閣

朱の鳥居風もくぐりて夏越かな

抱きくる汗の匂ひしユニホーム

足裏に風よく通る三尺寝

飄々と影遊ばせて水馬

風薫る母は五人の娘を育て

いつも彼のことばのやさし青田風

晩酌や何はともあれ冷奴

京の街すだれの奥で茶一ぷく

この道をゆけばふるさと野萱草

病窓の空気入れ替え風薫る

庭白し上りつめたる月涼し

一村のまるごと青田風の中

負けて泣く幼き剣士若葉風

兵庫県芦屋市

田原 トミエ

大垣市

傍島 豊子

不破郡垂井町

高木 初枝

不破郡垂井町

久保田 紘義

大垣市

北島 暁子

安八郡輪之内町

野村 照子

大垣市

佐竹 余史美

大垣市

坪井 克枝

大垣市

白井 秀子

大垣市

宮脇 和子

大垣市

高田 雅章

大垣市

坂 キクエ

不破郡垂井町

中嶋 笑子

岐阜市

船渡 恵

岐阜市

後藤 圭以子

岐阜市

田中 淳子

海津市

水谷 勲一

大垣市

立川 昌子

安八郡神戸町

高橋 日出美

埼玉県さいたま市

澤田 紫

一般の部

選者吟

道際に供花のひまはりつつがなし

永山

